



World Food
Programme

国連WFP協会

年次報告書2021



飢餓から救う。

SAVING LIVES CHANGING LIVES

未来を救う。

支援の道は、 岐路に。

私たちは飢えに苦しむ人びとから、
餓死の危険のある人びとへ
食料を割り振らなければいけません。
それはこの世の地獄でしょう。

国連WFP デイビッド・ビーズリー事務局長

それでも、
私たちは食料が
平和へと続く道だと
信じています。

CONTENTS

Prologue	1
特集 飢きんを知る	3
Highlight 2021	6
国連WFPの支援実績と主な活動	9
国連WFP協会の取り組み	15
企業・団体の取り組み事例	19
企業・団体からのご支援	21
2021年度決算報告	22

写真 © WFP/Mohammed Nasher

「食料支援が世界平和の源になる。」
皆様の継続的なご支援に深く感謝申し上げます。

2021年、飢餓の要因である紛争、気候変動、新型コロナウイルスの経済的影響、食料価格の上昇と、さまざまなことと闘いながら、国連WFPは史上最大の1億2,820万人の支援活動に取り組みました。今も世界ではウクライナ紛争をはじめ、さまざまな原因で8億人以上の人が十分に食べるこ

とができずにいます。国連WFP協会では食料こそが勇気と世界平和の源になると信じ、ウクライナ避難民や世界の人びとに食料と希望を届けます。一人でも多くの人へ食料を確かに届けられるよう、今後とも皆様からの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
国際連合世界食糧計画WFP協会会長
安藤 宏基

2021年、 43カ国4,500万人が 飢きんの瀬戸際にいました。

2021年11月、国連WFPは世界が深刻な事態になっていることを警告しました。気候変動や新型コロナウイルス感染症拡大、価格の高騰に加え、世界中で発生している紛争が飢きんの新潮流を引き起こし、その犠牲はかつてないほどに悲惨な状態になっています。

今この時も、
多くの人びとが
生き延びる環境を
奪われています。

“ 家族は子どもを早期に結婚させたり、学校を退学させたり、家畜などの資産や残されたわずかなものを売らざるを得ない状況にあります。アフガニスタンでは、生き延びるために子どもを売らなければならないという切迫した状況が報道されています。

国連WFP 11月8日プレスリリースより

“ 夜になるとお腹がすいてしまいます。私たち全員です。そうすると、葉っぱを食べなければなりません。この木は私たちの村に生えていて、ここにいる多くの人が食料不足のために葉っぱを食べています。

イエメン 7人家族(5人の子どもと妻)の父親 アブデュラティフさん

“ 紛争前は1日3回食事をしていましたが、今は1日1回の食事も難しいです。家族から食料をもらっていましたが、今はもう尽きてしまいました。私たちはただ寝て、死なないことを祈るだけです。

エチオピア 6人の子どもを持つシングルマザー キロスさん

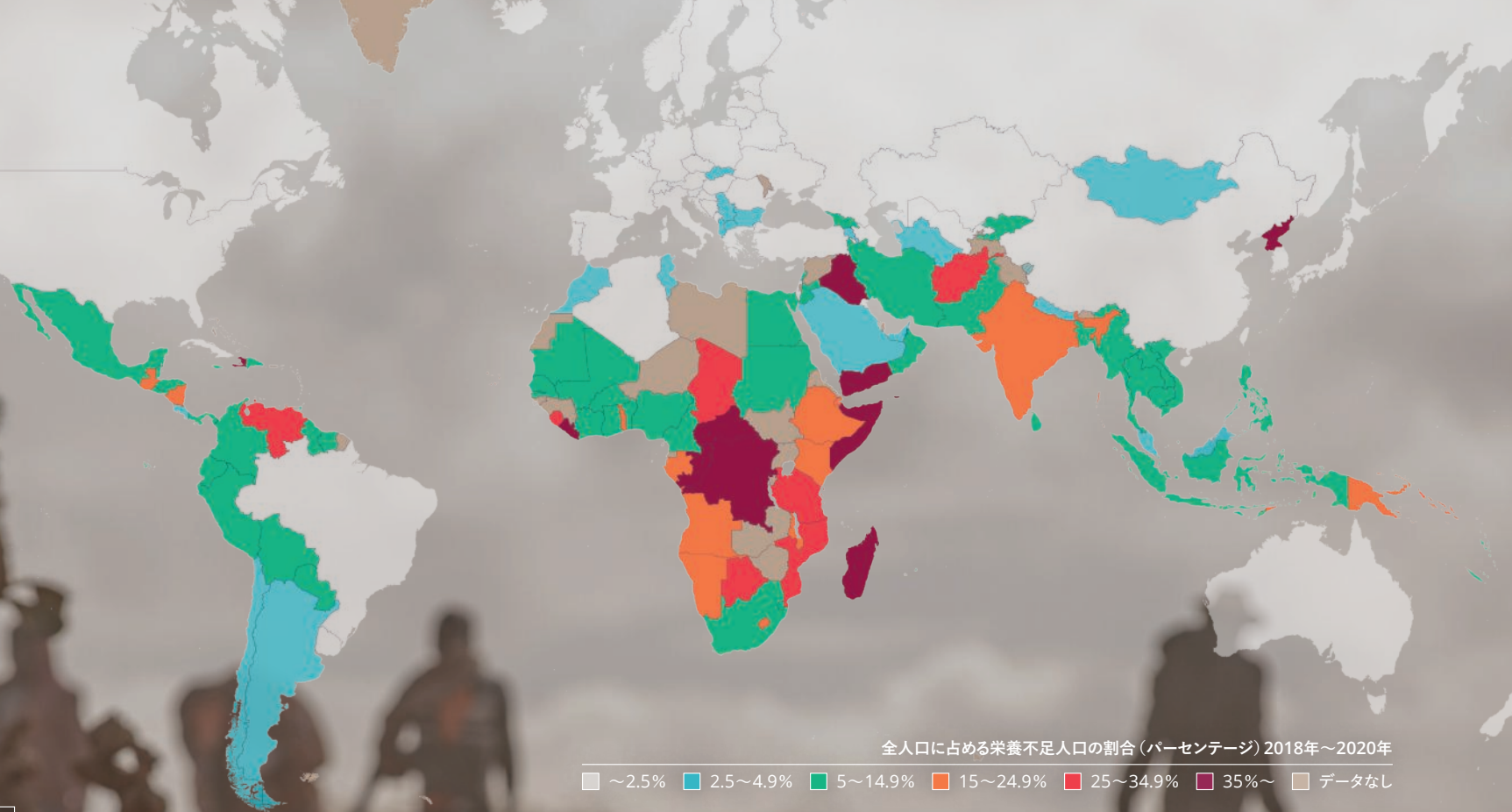
“ もはや問題はどれだけ悪いかということではなく、最悪の状況です。子どもたちが飢え、死んでいるのです。私は生後2ヵ月にしか見えない8ヵ月の子どもをもつ母親に会いました。彼女はすでに年上の子どもを亡くしていました。

マダガスカル国連WFP アメル・ダウディ
上級オペレーションディレクター

そもそも“飢きん”とは

- ① 20%以上の家庭が極端な食料不足
- ② 30%以上の子どもが急性栄養不良
- ③ 毎日1万人に2人以上が飢餓や栄養不良に関連して死亡

2021年は、世界で2億8,300万人が深刻な食料不足に陥っていました。これは2019年の1億3,500万人の約2倍に当たります。また、その内の4,500万人が飢餓の最も深刻な状態である緊急レベルの飢餓に直面しており、餓死や病気で死に至る可能性があります。食料も尽きてしまいただ眠る、生き延びるために子どもを売る、子どもたちが飢え、死んでいく——そんな悲惨なことが同じ地球上で今も起きているのです。



全人口に占める栄養不足人口の割合（パーセンテージ）2018年～2020年

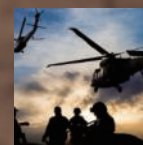
□ ~2.5% □ 2.5~4.9% □ 5~14.9% □ 15~24.9% □ 25~34.9% □ 35%~ □ データなし

コロナの蔓延、
多発する紛争により飢餓状況は
急速に悪化しています。

飢餓要因の複合化



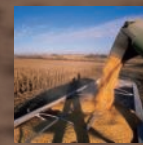
気候変動



紛争



新型コロナ



価格の高騰

飢餓状況の悪化加速

深刻な食料不足の人の数
1億3,500万人(2019年)

2億8,300万人
(2021年)

飢きんの瀬戸際にある人の数
2,700万人(2019年)

4,500万人
(2021年)

かつての飢きんは干ばつなどの気候変動が主な原因でしたが、近年の新型コロナウイルス感染症の蔓延や多発する紛争によって世界の飢餓状態はますます悪化しています。すでにイエメンや南スーダン、マダガスカルの一部では、飢きんに近い状態、あるいはすでに陥っており、さらに何百万人の健康や生活に危機が訪れる可能性が大きいなど、地域社会や国全体の未来に影を落としています。

ひどい干ばつに襲われたマダガスカル南部。砂嵐が農地や牧草を埋め尽くし、広大な耕作地は荒地となりました。

© WFP/Tsiory Andrianisoarana



Interviewee

Ethiopia

傷を保護する“絆創膏”じゃなく エチオピアの人たちの 回復力を高めるコミュニティを つくっています。

干ばつや紛争などの影響で、
ますます厳しい状況に

現在のエチオピアは、干ばつやサバクトビバッタ、新型コロナ
ウイルスなどのさまざまな課題が影響し、世界でも最も深刻な
経済危機が起きています。さらに2020年11月からは紛争が
始まり、ますます厳しい状況となりました。

そうした中で私たち国連WFPは「緊急食料支援」をはじめ、
「栄養失調になった子どもたちとお母さんに対する食料支援」
「難民に対する支援」「学校給食」「気候変動対策」「栄養失調・
消耗症を予防するための支援」という6つの事業を実施してい
ます。しかし、紛争が激化している一部の地域では、支援物資
を載せたトラックが入れず、その地域に備蓄していた食料も配
布が終わってしまっただけで食料がない状態が続いています。また、
干ばつも家畜が全部死んでしまうほど年々深刻化しています。
ある女性は「もう遊牧民の生活は限界だと思う。どこかに移動
して農民になることも考えている」とおっしゃっていました。伝
統的に受け継がれてきた生活をあきらめなければいけないほ
どの危機が迫っているのです。

支援が終了した後のことも考え
「組合づくり」を支援

緊急支援は直接的に支援できるというメリットがある反面、傷
を保護する“絆創膏”を貼るような当面をしのぐものに過ぎま
せん。ですから、私たちは国連WFPの支援が終わっても受益
者が自ら“回復”できるようなコミュニティづくりに挑戦してい
ます。例えば、女性グループの組合をつくり、ミシンを買って裁
縫の事業を始めたいという女性がいたら組合の貯蓄から貸
し付ける…というスキームです。まだまだうまくいかないことも
ありますが、受益者からは「毎日が楽しくなってきた」という感
想も聞けて、うれしく思います。

しかし、飢餓に苦しんでいる人たちは増え続けており、支援物
資が手に入らない、治療もできないと苦しんでいる間に子ども
が亡くなるということが当たり前になってきています。こうした
悲しみを乗り越えているお母さんのことを思うと、心が張り裂
けそうになります。そうした人たちを一人でも多く救うために、
今後も積極的に支援活動が続けていきます。皆様のご支援を
よろしくお願いいたします。

現地活動について
もっと知りたい方は
こちらから



<https://ja.wfp.org/stories-12>

©WFP

Highlight 2021

不安定化する世界、 急がれる食料支援。

新型コロナウイルス感染症の拡大や各地
での紛争が影響し、2021年には地球上で
10人に1人が飢餓に苦しみ、数千万人に
飢餓が迫っているなど不安定化の一途
を辿っています。国連WFPは、飢餓を未
然に防ぎ、人びとを飢餓の淵から遠ざける
ために24時間体制で活動しています。

ミャンマー

2月

クーデター後に増え続ける 避難民への支援を拡大

2月に発生したクーデターの影響で、失業や食料・燃料価格の高騰、政情不安、暴力、避難などで苦しむミャンマーの人びとの危機は、新型コロナウイルス感染症の急拡大でますます深刻化しました。国連WFPはこの状況に対応し、6万3,015トンの食料と2,720万米ドルの現金支援を、前年の約3倍にあたる290万の人びとに直接届けるとともに、増え続ける国内避難民の対応にもあたりました。紛争によって2月1日から年末までにミャンマー国内で約32万900人が避難し、さらにラカイン、カチン、シャン、チン、カインの各州で37万人の国内避難民が長期にわたる避難生活を強いられています。こうした人びとに手を差し伸べるため、2021年を通じて約30万人の国内避難民を支援しました。



©WFP/Naing Linn Shwe

アフガニスタン

9月

タリバンによる首都掌握後、 早期に人道支援の フライトを再開

国連WFPが主導する国連人道支援航空サービス (UNHAS) は、タリバンがアフガニスタンの首都を掌握したことを受けて、9月にカブールへの人道支援航空を再開。複数の場所で切実な状況にあったアフガニスタンの人びとに支援を届けることができるようになりました。UNHASはイスラマバード、ドーハ、ドゥシャンベ、カブール、その他国内の21の州を結ぶ重要な航空路を提供しており、160以上の団体に代わって4,000人以上を742回のフライトで移動させました。また、8月までの間にアフガニスタン国内で130万人を支援していましたが、12月までに支援した人数は1,500万人と大幅に増加しました。国内のパートナーと協力し、全国34の全ての州で支援の必要な人びとに直接支援を届けています。



© WFP/Photolibrary

マダガスカル

10月

深刻な干ばつの中で 子どもたちの栄養不良を治療

マダガスカル南部はひどい干ばつに見舞われており、非常に多くの人びとが食料不足に陥っています。状況の深刻さから何千人もの人びとが食料を求めて移住しなければならず、残った人びとは野生の食料を探すなど、生き延びるために極端な手段をとっています。国連WFPは、2020年10月のリーンシーズン（収穫期直前の最も食料が不足する時期）開始以来、一般的な食料配給に加え、栄養補助食品を通じて毎月約70万人を支援。さらに2021年11月までに、南部で最も被害の大きかった6地区で5歳未満の子どもたち11万1,500人以上に栄養不良の治療を実施しました。国連WFPの支援によって2021年5月以降、栄養不良率は約12%から7.5%に低下しました。



© WFP/Sitraka Nialina Raharinaivo

飢きんの瀬戸際から救うために、
私たちは世界中で支援の光を灯しています。

シリア

3月

シリア危機から10年、未だ支援を継続

シリア危機から10年、1年を通してパンやレンズ豆、米などの基本的な食料品はかつてないほど高価となり、多くの家族が貯蓄を使い果たし、経済危機に対処できないでいます。国連WFPは、診療所から教室、食卓まで最も支援を必要とする人たちに食料を提供。新型コロナウイルス感染症拡大の最中、これまで以上に多くの家族が必要な食料を入手できるようにするため、全国を巡り、支援を届けました。



© WFP/Hussam Al Saleh

ギニアビサウ

5月

コロナ禍での
国境閉鎖で進む貧困へ対応

ギニアビサウでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため職場や国境が閉鎖され、人や物の自由な流れが阻害され、国民の多くは貧困と食料難に追い込まれました。そこで現金支援によって家族を養えるようにするだけでなく、地元で商品を購入することで地域経済の活性化にも貢献し、より早い社会的復興の実現につながりました。

ハイチ

8月

大地震の被災地に緊急支援を実施

人口の約半数にあたる440万人が食料支援を必要としていたハイチで、8月14日にマグニチュード7.2の大地震が発生。国連WFPは地震の発生前から1食も食べられない何千人という人びとを支援していましたが、今回の地震を受けて最前線でハイチ政府と緊密に連携し、物流活動を支援し、救命物資や人道支援者を被災地に輸送しました。



© WFP/Myriame Francois

ガンビア

10月

日本政府が栄養対応を支援

ガンビアの食料不安を抱える脆弱な人びとを支援するために、日本政府は150万米ドル（1億6400万円）を拠出しました。これによって国連WFPは、栄養不良の5歳未満の子どもたちや妊娠中、授乳中の女性、HIV感染者の母親に栄養強化食品を提供したほか、中等度の急性栄養不良に対応。また、最善の食事方法を実践するための栄養教育と意識向上を支援しています。

バングラデシュ

3月

火災で住む場所をなくした難民を支援

難民キャンプ「クトゥパロン」での火災を受け、避難した人びとに迅速な食料支援を実施。また、この火災で2カ所の国連WFP栄養センターと食料配給所1カ所が全焼してしまったため、援助が必要な人びとに栄養強化ビスケットを届けたほか、バングラデシュ政府やパートナー機関と協力し、6万人の人びとに1日2回、調理済みの食事を提供しました。



© WFP/Sayed-Asif-Mahmud

コロナ主因による
「飢餓状況の劇的悪化」を報告

国連WFPなどによる報告書「世界の食料安全保障と栄養の現状」(※)は、新型コロナウイルスの流行が主な原因となって世界の飢餓状況が劇的に悪化したと発表。2020年は世界人口の10人に1人にあたる最大8億1,100万人が飢餓に苦しんだと推定されており、2030年までの目標「飢餓をゼロにする」を達成するには多大な努力が必要であることを示しています。

※この報告書は毎年、前年の飢餓人口を発表します。

パキスタン

9月

女性や子どもの栄養強化のために地元製粉所を支援

パキスタンでは、女性と子どもの半数以上が鉄や亜鉛、葉酸、ビタミンA、ビタミンDなどの必須微量栄養素の摂取が足りていません。そこで栄養不良と発育阻害の撲滅を目的として、地元の小規模製粉所を対象にビタミン・ミネラルを強化した小麦粉の生産をサポート。女性と子どもの栄養強化だけでなく、地元製粉所のビジネスの活性化にも貢献しています。



© WFP/Henriette Bjorge

COP26で「食料システムの変革」の必要性を提言

11月に開催された国連気候変動サミット「COP26」で、国連WFPは「私たちの食料システムが地球を壊し、気候危機が私たちの食料システムを壊している。適切に食料システムの変革が進めば気候変動対策を加速させることができる。世界で直面しているリスクや問題、またその解決策もグローバル化しており、相互に関連している」と警鐘を鳴らしました。

飢きん対応

イエメン

紛争による史上最悪の人道危機に緊急対応

イエメンでの紛争が7年目に突入したことで経済危機は著しく深刻化し、通貨安に伴う食料価格の高騰によって十分な食事に手の届かない人の数が増加。全人口の66%に当たる2,070万人が支援を、そのうち1,210万人が緊急対応を必要としました。国連WFPは、イエメンで1,550万人（2020年から5%増加）の人びとを支援しました。これは国連WFPの世界最大の活動です。しかし、依然として資金は不足しており、2021年末には支援の縮小を余儀なくされました。

南スーダン

期間・規模を調整しながら、約600万人を支援

724万人が食料支援を必要とし、そのうち10万8,000人が飢きんの危機にさらされると予測されるなど、3年連続の異常洪水や紛争、経済危機によって南スーダンの人道危機はさらに深刻化しています。記録的なレベルの深刻な食料不安に対応するため、国連WFPは限られた資源で優先地域を拡大できるように活動の期間と規模を調整しながら、支援を必要とする約600万人に支援を届けました。

エチオピア

食料と現金によって983万人を支援

紛争、干ばつや洪水を含む気候危機、新型コロナウイルス感染症の流行、バッタ類の大量発生などによってエチオピア全土で食と栄養の安全保障のレベルが悪化しています。食料不安と推定される人の数は2021年4月には1,090万人でしたが、年末には1,800万人以上に増加しました。国連WFPは44万7,460トンの食料と1,860万米ドルの現金給付を実施し、983万人を支援したほか、62万2,000トンの食料物資をさまざまな経路で輸送しました。

資金が不足しています

2021年国連WFPは96億米ドルの資金を調達することができました。しかし、これは必要とされた額148億米ドルに対し、52億米ドル不足しています。この資金不足により、国連WFPの現地職員は支援対象者の選択や支援量の削減など、苦渋の決断を迫られています。

必要額
148
億米ドル

不足額
52
億米ドル

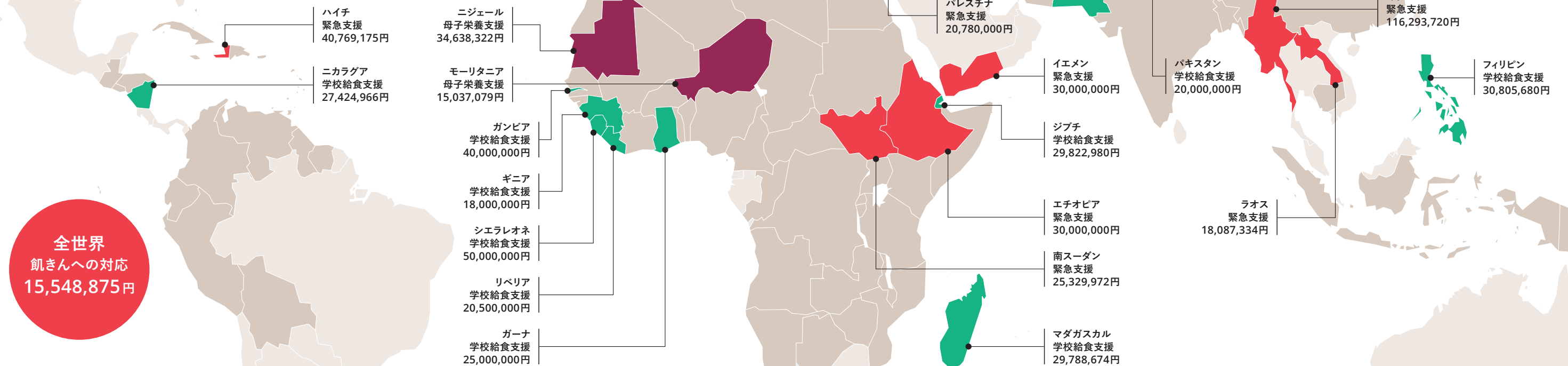
調達額
96
億米ドル

7

国連WFP協会 Annual Report 2021 8

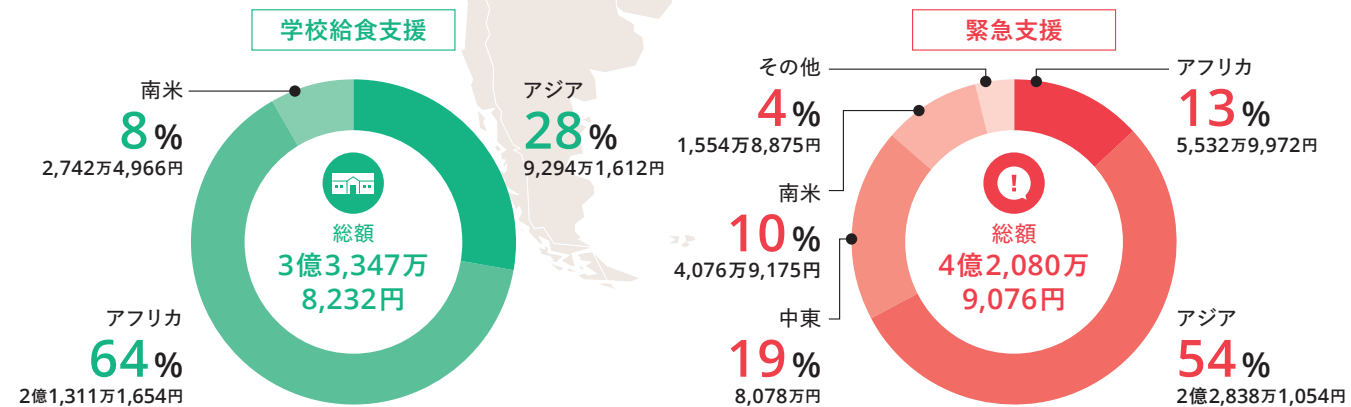
2021年は
120以上の国と地域で、
1億2,820万人に
440万トンの食料を届けました。

国連WFPの支援実施国 国連WFP協会からの寄付送金国 学校給食支援 緊急支援 母子栄養支援



全世界
飢きんへの対応
15,548,875円

WFP国連世界食糧計画への送金額の国別内訳



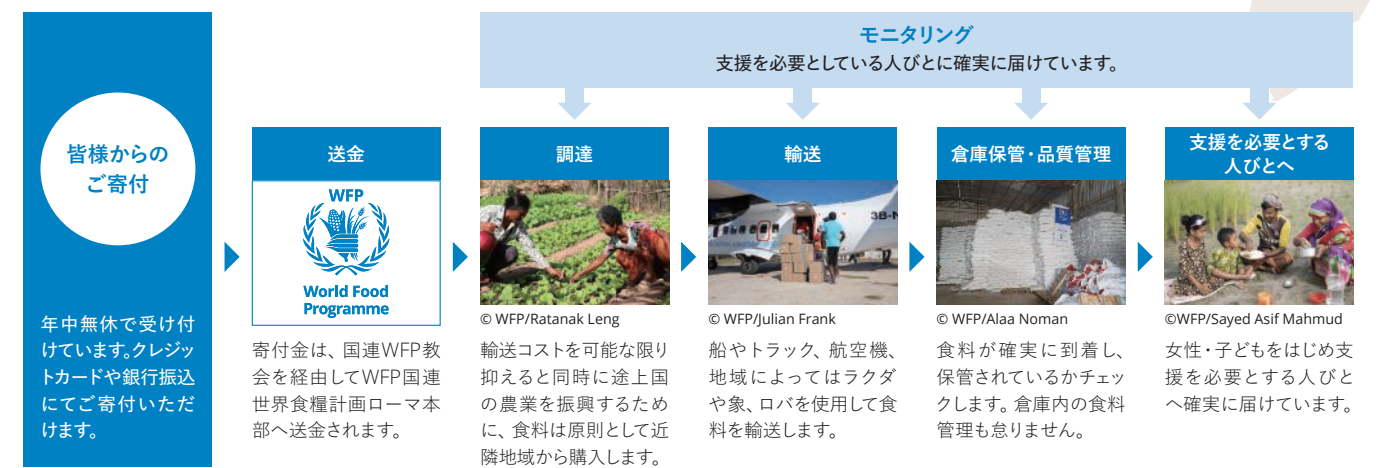
国連WFPが活動している世界120以上の国と地域の中でも、日本の民間の皆様からの支援を必要としている国やプロジェクト、ご支援者の皆様のご指定に合わせた国、特に新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって緊急支援を要している国や地域に送金しました。

SDGsの基盤となる
目標2「飢餓をゼロに」の達成に向けて



「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」は、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「質の高い教育をみんなに」など、2030年までに達成すべき17の国際社会の共通目標をまとめたものです。国連WFPは、目標2「飢餓をゼロに」が他の目標達成の基盤にもなるとの考えのもと、パートナーシップを通じて活動し、全てのSDGsの達成に貢献しています。

「確かに届ける」ために



飢餓から救う。

SAVING LIVES



国連WFPは、紛争や自然災害などの緊急時に食料や輸送・通信を支援しています。私たちが何十年にもわたって積み上げてきた緊急事態に対処するための知見は、国連WFPの行動指針に基づいた「支援計画の立案」「緊急支援への備え・対応」の両方に活かされています。



緊急支援

Emergency Response

2021年支援実績（緊急レベル2,3に分類された国のみ）

25 カ国 / 6,790 万人

関連するSDGs



紛争や大災害が起きた時、まず必要とされるのが食料です。国連WFPはいち早く被災した地域に入り、人びとに生き延びるための食料を届けています。

紛争・政情不安から逃れてきた
難民を支援(カメルーン)



中央アフリカ共和国は紛争や政情不安によって深刻な食料不安に陥っており、国民の4人に1人が避難民となっています。隣国に位置するカメルーンは、2021年末時点で約48万人の難民と約93万人の国内避難民を受け入れています。国連WFPは、82万7,000人以上に食料・栄養支援をするとともに、災害に強い地域社会づくりの構築支援を実施。また3万9,000トンの食料を配給したほか、国内全ての危険地域に現金給付を拡大し、5つの地域（極北、アダマワ、東部、北西部、南西部）の受益者に現金を届けました。特に脆弱な状況にある人びとには現金支給を通じて1,000万米ドル以上を支援しました。

VOICE



© WFP/Alexis Masciarelli

“ ようやく、まともな ”
食事ができそうです

ハイチ地震の被災者、
フルリモン・ミシェルさん

支援を受けるまでは、木からバナナやアボカドを採らなければなりませんでした。この支援は私たちにとって大きな助けとなりますし、支援を受けられてうれしいです。最後に豆料理をつくってからずいぶん月日が経っていましたが、今夜はようやくまともな食事ができそうです！



輸送通信支援

Logistics and Emergency Telecommunications Cluster

2021年支援実績

147 カ国 / 32.5 万人
（物資を運んだ国） （運送した人道支援職員の数）

関連するSDGs



国連WFPは、食料支援だけでなく、輸送や物流といったロジスティクスおよび情報通信の分野においても人道支援機関の中でリーダーの役割を担っています。

大型台風で被災した人びとを支援(フィリピン)



2021年12月にフィリピン南東部に上陸した台風22号（現地名：ライ）は、豪雨や強風、高波、土砂崩れなどをもたらし、240万人が支援を必要としました。また、53万人以上の農民・漁民が被災するなど、壊滅的な被害をもたらしました。国連WFPは、フィリピン政府の輸送通信を支援するとともに、通信車両を配備して災害後の通信手段を確保。さらに機材の貸し出しや政府が支給する救援物資を輸送するためのトラックを提供したほか、災害支援のための269台のトラックを用意し、さまざまな救援物資を運びました。

VOICE



© WFP/Francis Thawani

“ テントは換気が良く、 ”
快適に勉強できました

新型コロナウイルスの感染が急拡大していたマラウイに対し、陽性者となった学生の隔離スペースとして移動式テント3張りを提供しました。

中学3年生のネリー・パウンディさん

テントは大きく、ソーシャルディスタンスを保つのに十分な広さでした。テントは換気が良く、快適に勉強できて感謝しています。

未来を救う。

CHANGING LIVES



© WFP/Evelyn Fey

国連WFPは緊急的な「人道支援」だけでなく、持続的な「開発支援／自立支援」を担っています。途上国の地域社会と協力して女性や子どもの栄養状態の改善や強い社会づくりに取り組んでいます。



学校給食支援

School Feeding

2021年支援実績

57 カ国

1,550 万人

関連するSDGs



学校給食支援は子どもの栄養状態を改善し、勉強への集中力を高めます。また、学校給食があることで家庭が子どもを学校に通わせる動機となり、就学率の向上にもつながります。



母子栄養支援

Nutrition

2021年支援実績

51 カ国

2,350 万人

関連するSDGs



胎児から2歳に成長するまでに十分な栄養を摂れないと、身体や脳の発達が遅れ、その影響は生涯にわたる恐れもあります。国連WFPは、妊産婦と乳幼児の栄養支援を強化しています。



自立支援

Resilience Building

2021年支援実績

870 万人

関連するSDGs



国連WFPは、職業訓練やインフラ整備などの対価として食料などを支給するとともに、中長期的には住民自身が災害に強い地域づくりや食料不足の解消に取り組むよう促しています。

国連WFPの学校給食支援を政府に引き渡し(ラオス)

国連WFPは、約20年にわたってラオスの子どもたちに学校給食を支援してきましたが、2021年に政府への引き渡しが完了しました。これまで国連WFPが支援してきた8県915校の学校には、ラオス政府が直接学校給食を届けます。ラオスでは過去20年間で就学率が上昇しており、2018年に実施された分析では1米ドル支出するごとに投資対効果は6米ドルであることが分かりました。支援を受けた子どもは支援を受けていない子どもと比べて6ヵ月長く学校に通うことができており、学校給食は子どもたちの未来につながっています。



© WFP/Rein Skullerud

干ばつの被害を受けた子どもと母親に栄養支援(ケニア)

2021年、ケニアは新型コロナウイルス感染症と干ばつ、イナゴの大量発生などの影響によって食料不安に見舞われました。国連WFPは、干ばつが進んでいる地域を中心に急性栄養不良に対する定期治療を提供。これらの地域では栄養不良が多く、食料安全保障が危険な状況にありました。5歳未満の子どもにはすぐに食べられる栄養たっぷりのピーナッツペーストのペーストを支給し、母親には栄養価の高い小麦粉を配布しました。今後は保健省やパートナーと協力しながら他の被害地域へ支援を拡大していく予定です。



© WFP/Arete/ Fredrik Lenneryd

女性の農民のために 女性生産者グループプロジェクトを開始(タジキスタン)

タジキスタンでは、国民のほとんどが農業と出稼ぎ労働で生活しています。しかし、女性の農民は労働の見返りとしての報酬をほとんど得ていないことが分かりました。そこで国連WFPは、食料確保の機会と収入向上の機会を平等に得られるよう国内の21地区で女性生産者グループプロジェクトを開始。約90人の女性が参加し、農場の生産性を高める方法を学びました。2021年4月には収穫が上手くいき、自分たちの食料を確保するだけでなく、余剰分を市場で販売することができるようになりました。



©WFP/Nasrullo Ramazonov



© WFP/Emily Fredenberg

ルワンダ

VOICE

ルワンダに住むランバートくん

うちは農家なので両親は一日の大半を畑で過ごしています。学校給食がなかった頃は昼休みに学校から帰ってきてても、食べるものがありませんでした。お腹が空いていたので、午後から学校に戻る気にもなれませんでした。今は学校でおいしい給食を食べているので、お腹が空かない分集中して勉強ができます！



© WFP/Arete/Saiyna Bashir

パキスタン

VOICE

生後7ヵ月の娘を持つ母親ニーランさん

国連WFPの栄養補助食品で私たちは救われました。以前は、娘のハリヤンがよく泣いていたのですが、今は少し体調が良くなり、幸せそうにしています。ハリヤンは、私が栄養補助食品を渡すと喜びます。国連WFPの支援のおかげで、ハリヤンは以前より健康的になっています。



© WFP/Giulio d'Adamo

エクアドル

VOICE

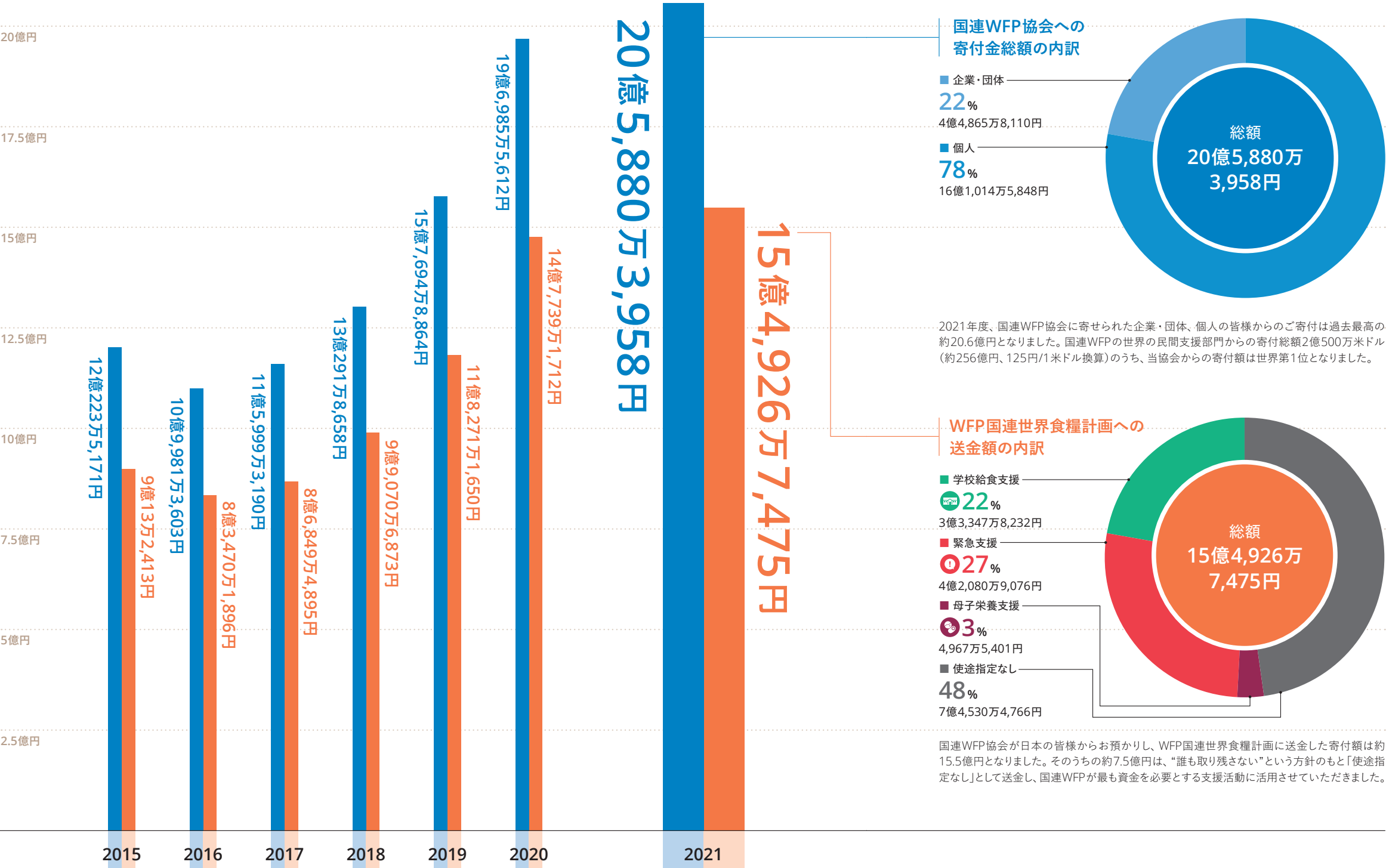
エクアドルで お米を生産しているマルセロさん

国連WFPの支援を受けて、有機米を栽培する農法について学びました。この農法は農薬も除草剤も使わない有機栽培で、よりおいしく安全な米を生産することができます。最初の頃は古い習慣を変えることに抵抗感がありましたが、国連WFPの現場スタッフの支援のおかげで私たちの考え方は大きく変わりました。

日本からの支援の手が続々と。
どんどん広がる思いやりのご支援。

国連WFP協会の寄付金と送金額の推移

■ 国連WFP協会への寄付金総額 ■ WFP国連世界食糧計画への送金額



国連WFP協会とは

特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会（国連WFP協会）は、飢餓をなくすことを使命にする国連唯一の食料支援機関であるWFP国連世界食糧計画の、日本における公式支援窓口です。WFP国連世界食糧計画の活動は全て、各国の政府の拠出金や、企業・団体、個人などの寄付金でまかなわれており、国連WFP協会は、民間を対象とした募金活動や、企業・団体との協力関係の推進、広報活動を通して

WFP国連世界食糧計画の活動を支えています。また、日本においては、「国連WFP」という総称を用いて、国連機関であるWFP国連世界食糧計画と、それを支援する認定NPO法人である国連WFP協会という2つの団体が協力して活動を行っています。国連WFP協会は、1999年に設立され、2005年より「認定NPO法人」に認定されています。

支援者の声

ひできくん

初めての寄付は
食べられない
子どものために。



ご飯が食べられない子どもがいることをテレビで知って、自分だったらどんなにつらいだろうと思いました。人の役に立つことをしたい、困っている人を助けたいと思い、お母さんに話してみると、国連WFPは食べ物に困っている人を助けていると教えてもらい、国連WFPにお年玉の残りを寄付することにしました。お礼の手紙をもらって、人の役に立てたことがうれしかったです。また寄付したいと思います。

松本達也 様

食べるのが好き。
だから誰もが食事で
笑顔になってほしい。



2004年から国連WFPを支援しています。仕事が一区切りつき、しばらく長期休暇を取るつもりだったのですが、何もしないよりは支援活動でもしようとボランティアもできる支援先を探しました。住んでいる所から近く、食べることが好きなので、国連WFPに決めました。フランスに住んでいたことがあり、アフリカの状況や移民の方も身近だったので、寄付しやすかったです。今後も応援します。

広がった支援は身近なところにも 日本国内での支援の輪。



1 レッドカップキャンペーン 10周年

- ▶ 寄付総額 約6億円
- ▶ 学校給食支援 約2,000万人
- ▶ RCC商品コーナー 2社

毎日のお買物で学校給食を支援できる「レッドカップキャンペーン」は2021年11月で開始から10周年を迎えました。これを記念して、キャンペーンキャラクターのレッドカップちゃんが学校給食支援をわかりやすく説明する動画を9本作成、また、一部の小売店で、キャンペーンに参加中の商品を集めた大陳列が行われるなど、身近にできる支援としてのレッドカップキャンペーンの認知拡大につながりました。

- 1 「レッドカップキャンペーン10周年」を記念して制作された動画
<https://www.jawfp.org/redcup/movie/>
- 2 イオン九州・大塚店
- 3 記念動画でラップを披露するレッドカップちゃん



「WFPチャリティー エッセイコンテスト 2021」表彰式の様子
式には湯川れい子さん、特別審査員の竹下景子さん、ふなっしーさん、広瀬アリスさんなどが参加

2 WFPチャリティー エッセイコンテスト

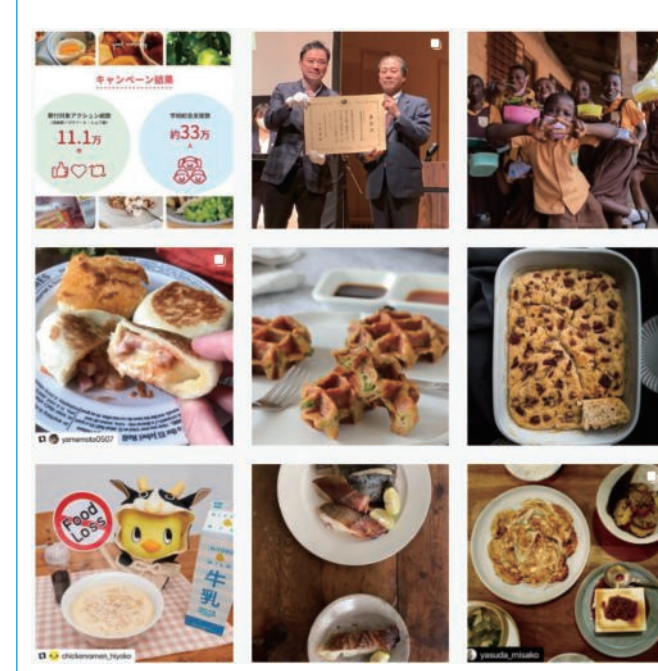
- ▶ 応募数 2万3,075作品
- ▶ 学校給食支援 約6万9,200人

「WFPチャリティーエッセイコンテスト」は応募1作品につき給食3日分(90円)が寄付協力企業より国連WFPの学校給食支援に寄付される仕組みです。2021年は「こころのワクチン、私のごはん」をテーマに募集。新型コロナウイルスのワクチン接種が進む中、いかに「食」が心や体の健康に影響を及ぼしているか等、例年以上に「食」と向き合う作品が多く寄せられました。応募総数は過去最多の2万3,075作品となり、約6万9,200人の子どもたちに給食を届けました。

3 ゼロハンガーチャレンジ 食品ロス×飢餓ゼロ

- ▶ アクション過去最多 11.1万件
- ▶ 学校給食支援 約33万人

4年目を迎えた「ゼロハンガーチャレンジ 食品ロス×飢餓ゼロ」。これは食品ロスを減らすアクションを起こしてSNSに投稿またはアンバサダーの投稿を拡散すると1投稿/拡散=120円の寄付となり、学校給食4食分を途上国の子どもたちに届けるというもの。2021年は、寄付対象アクション総数、学校給食支援数ともに過去最高となりました。また、消費者庁食品ロス削減推進大賞審査委員会委員長賞を受賞しました。



国連WFP協会Instagramより

4 WFPウォーク・ザ・ワールド

自主開催

ワンステップクローサー

116人が参加



5団体
総勢154人
参加



つづきこまつりこども企画委員

「WFPウォーク・ザ・ワールド」は、コロナ禍によって2年連続で中止となりましたが、「ウォーク・ザ・ワールドin〇〇」として企業・団体に各地で自主開催していただきました。また、コロナ禍でも子どもたちの飢餓をなくすために一歩でも前進したいとの願いを込めて、MOUSSYコラボTシャツ付きのチャリティーウォーキング企画「ワンステップクローサープロジェクト」を開催し、全国各地に支援の輪が広がりました。

5 SDGsユーモアイラスト展



難しい内容と捉えられがちなSDGsについて子どもから大人まで楽しく学び、関心を持っていただきたい——そうした思いから、国連WFP協会の理事も務めるマルチクリエイター・本田亮氏が制作する、SDGsの17の目標をユーモアあふれるイラストでわかりやすく紹介した作品の展覧会「SDGs ユーモアイラスト展」を全国で無料開催しました。

6 Will for peace ～食料支援と平和への道～ 2021年5月15日

リアルタイム
参加
約300人

2020年12月に国連WFPはノーベル平和賞を受賞しました。これを記念して、「平和に共存する国際デー」である5月16日に、紛争地域で実際に支援活動をしている国連WFPの日本人職員とリアルタイムでつないだオンラインイベントを開催。モデレーターには国際人道支援現場での取材経験が豊富な堀潤氏をお迎えし、食料支援で世界に平和を築く方法を視聴者と一緒に考えました。



7 Changing Lives ～スポーツとSDGsから創る未来～ 2021年7月9日

リアルタイム
視聴
200人超

2021年、平和の祭典であるオリンピック・パラリンピックが東京で開催されましたが、世界では8億1,100万人もの人びとが飢餓に苦しんでいます。そこで、国連WFPの支援で育ったオリンピック選手をはじめ、企業、ジャーナリスト、専門家と共に、食と栄養が身体をつくることに果たしてきた役割や飢餓問題を語るときには外せない食品ロス問題を話し合うイベントを開催しました。



支援の輪は企業・団体の皆様の手で より大きな広がりを見せています。

レッドカップキャンペーン

国連WFPの学校給食支援のシンボルである「レッドカップ」のロゴ付き商品を購入すると、売り上げの一部が企業から寄付されます。



食品

株式会社 あさくま	アサヒ飲料 株式会社	株式会社 あじかん	株式会社 イズミ クリエーション	株式会社 一栄食品	株式会社 大井川茶園	株式会社 おやつカンパニー	カンロ 株式会社	キャンベル ジャパン 株式会社	キュービー 株式会社
共立食品 株式会社	株式会社 湖池屋	こと京都 株式会社	株式会社 サガミホールディングス	昭和产业 株式会社	株式会社 真誠	全国農協食品 株式会社	泉南乳業 株式会社	株式会社 タナカバナナ	トップ卵 株式会社
株式会社 ニコン	日清食品 株式会社	日清食品冷凍 株式会社	日本生活協同組合 連合会	ハウス食品 グループ	プリマハム 株式会社	株式会社 ポラマーマ	マルイ食品 株式会社	株式会社 ロッテ	

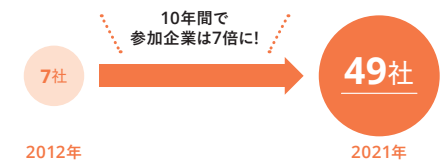
日用品

アドベンチャーホールディングス 株式会社	株式会社 イーカムグループ	株式会社 エアージェイ	株式会社 グラム	株式会社 スリーケー	中山福 株式会社	株式会社 日曜社	株式会社 プレリードッグ	丸真 株式会社	株式会社 ユニーク
----------------------	---------------	-------------	----------	------------	----------	----------	--------------	---------	-----------

その他

株式会社 河本総合防災	株式会社 サンピア	株式会社 シーライン 東京	株式会社 tabekifu	東亜道路工業 株式会社	ザ・プリンス 箱根芦ノ湖	株式会社 村内ファニチャーアクセス	名鉄 観光サービス 株式会社	横浜市	株式会社 ワコウ
-------------	-----------	---------------	---------------	-------------	--------------	-------------------	----------------	-----	----------

協力企業が増えています



近年はサービス業や外食産業など、自社商品やサービスをお持ちの幅広い業種の企業様にSDGsへの貢献として積極的にご参加いただいています。

支援企業の声

当社は27年間生パスタを販売し続けている外食企業です。何か社会貢献につながることはできないかと考え続けていたところ、たどり着いたのがレッドカップキャンペーンでした。当社は、季節に合わせて年4回おすすめ商品を販売しています。レッドカップキャンペーンでは、秋のおすすめ商品をご注文いただくごとに1食30円募金に充てさせていただきました。

株式会社ポラマーマ SDGs推進チーム



協賛・マッチング寄付協力

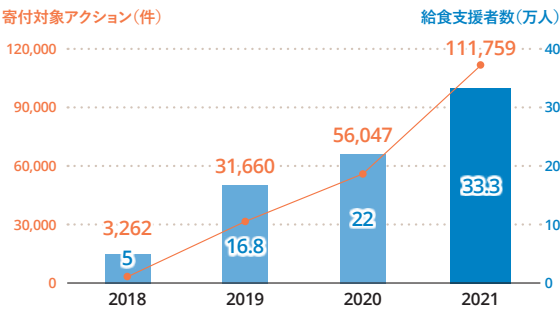
当協会が主催するイベントに協賛いただくか、マッチングなどの寄付協力ができます。

●ゼロハンガーチャレンジ

SDGsへの貢献として、取り組みやすいといわれる食品ロス削減アクション。2018年のスタートから、マッチング寄付対象アクションが約35倍、届けられた学校給食も当初から約6倍に増加しました。現在では、食品関連企業・団体に限らず、精密機器や自動車産業など幅広い業種の皆様からご支援いただいています。

スペシャルサポーター：株式会社 明治／日清食品ホールディングス株式会社
特別協賛：ハウス食品グループ本社株式会社

寄付対象アクション・給食支援者数の推移



令和3年度の食品ロス削減推進大賞にて、審査委員会委員長賞を受賞しました！

●エッセイコンテスト

WFPチャリティーエッセイコンテストは、子どもたちが日常で経験することのない「飢餓」で苦しむ人びとに対する関心を高めることを目的としたコンテストです。小学生から大人まで参加することができ、応募1作品につき給食3日分(90円)が寄付協力企業のご協力により国連WFPに寄付されます。2021年は3社から寄付協力をいただき、19社の企業からご協賛いただきました。本コンテストは2004年から毎年開催し、2021年は過去最多応募となるなど、年々注目度が上がっていています。

特別協賛：日清食品ホールディングス株式会社／株式会社三菱UFJ銀行
寄付協力：昭和产业株式会社／日清食品ホールディングス株式会社／三菱商事株式会社

さまざまな協力

企業・団体からご協力いただくだけでなく、顧客などさまざまなステークホルダーを巻き込んだ社会貢献ができます。

①ポイントやカタログを通じた支援

クレジットカードやポイントカードのポイントを寄付するか、カタログギフトで商品の代わりに寄付するかを選択できます。

株式会社エポスカード／株式会社協和／大和証券株式会社／株式会社高島屋三井住友カード株式会社／三菱UFJニコス株式会社／ヤフー株式会社
リンベル株式会社 など

③株主優待を通じた支援

企業の株主優待の中には、優待品に代わって「国連WFPへの寄付」を選択できる事例もあります。

カンロ株式会社／キッコーマン株式会社／新晃工業株式会社／株式会社小村屋日清食品ホールディングス株式会社／日本ハム株式会社／日本証券業協会 など

②募金箱へ寄付

店頭や街頭、イベントなどで設置された募金箱からご寄付いただけます。

株式会社朝日ネット／コネクシオ株式会社／株式会社セブン&アイ・フードシステムズ株式会社大創産業／日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社
一般社団法人日本フードサービス協会／株式会社ファミリーマート など

④給与天引き・マッチングプログラム

国連WFPの活動に賛同する社員の皆様から、定期的に一定額を差し引いた給与天引き寄付や、社員の皆様や募金箱など特定の寄付に、企業からの寄付金を上乗せするマッチング寄付ができます。

株式会社小村屋／株式会社ファミリーマート／株式会社三菱UFJ銀行 など

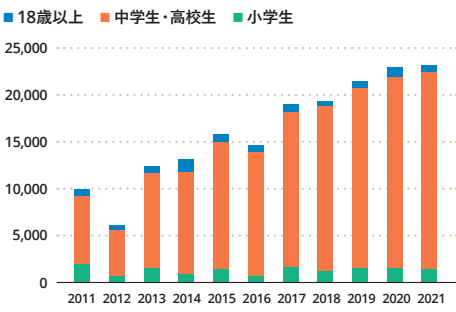
支援企業の声

明治グループは、食品ロスを重大な社会課題と捉え、その削減に取り組んでいます。ゼロハンガーチャレンジには2020年から参加しており、2021年にはスペシャルサポーターとしてSNS投稿を活用した企画を実施しました。これがきっかけとなり、食品ロス削減や飢餓ゼロに関心を持つ方が増えたのであれば幸いです。

明治ホールディングス株式会社
サステナビリティ推進部



応募総数の推移



多くの企業・団体の皆様からご寄付をいただきました。
皆様からのあたたかいご支援に、心より御礼申し上げます。

国連WFPコーポレートプログラム

年間一定額のご寄付をいただき、継続的に国連WFPの活動にご協力いただくパートナーシップです。

パートナー

kaneka

松緑神道大和山

NISSIN HOLDINGS

株式会社カネカ

宗教法人
松緑神道大和山

日清食品
ホールディングス
株式会社



日本ケンタッキー・
フライド・チキン
株式会社

FamilyMart

株式会社
ファミリーマート

サポーター

ITOCHU

CO-OP

伊藤忠商事
株式会社

日本生活協同
組合連合会

コントリビューター

ITOCHU
伊藤忠リーテイルリンク株式会社

ELETEC

CAGO'S
BRIDGE

伊藤忠
リーテイルリンク
株式会社

株式会社
エレテック
コーポレーション

株式会社
Q'sfix

ベアホーム協会

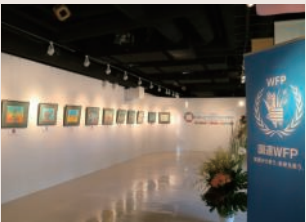
三菱商事

一般財団法人
ベターホーム協会

三菱商事
株式会社

支援企業の声

伊藤忠商事株式会社
サステナビリティ推進部



当社は、SDGsの「飢餓をゼロに」に通じる国連WFPの活動趣旨に強く賛同し、協会の設立時から携わっています。最近では2020年10月の「本田 亮 SDGsユーモアイラスト原画展」(主催：国連WFP協会)に協力しました。開催期間中に国連WFPがノーベル平和賞を受賞するという快挙もあり、会期を2か月延長しました。また、2022年は3年ぶりに開催された「WFP ウォーク・ザ・ワールド」に約200名の社員が参加しました。今後も、さまざまな形で国連WFPの活動を支援し続けたいと思います。

2021年に100万円以上のご寄付をいただいた企業・団体の皆様

- ・アサヒ飲料株式会社
- ・株式会社朝日ネット
- ・株式会社あじかん
- ・アドヴェンチャーホールディングス株式会社
- ・株式会社アルトナー
- ・株式会社 一榮食品
- ・伊藤忠商事株式会社
- ・伊藤忠プラスティクス株式会社
- ・伊藤忠リーテイルリンク株式会社
- ・巖本金属株式会社
- ・株式会社エゴスカード
- ・株式会社エレテックコーポレーション
- ・生活協同組合おおさかバルコープ
- ・大阪よどがわ市民生活協同組合
- ・株式会社オフィス・カラーサイエンス
- ・株式会社カーブスジャパン
- ・株式会社カスミ
- ・株式会社カネカ
- ・株式会社河本総合防災
- ・関東総業株式会社
- ・カンロ株式会社
- ・キッコーマン株式会社
- ・キャンベルジャパン株式会社
- ・キュービー株式会社
- ・株式会社Q'sfix
- ・共立食品株式会社
- ・株式会社協和
- ・株式会社クラダシ
- ・株式会社グラム
- ・株式会社湖池屋
- ・国連WFPサポーターズなごや
- ・コネクシオ株式会社

- ・株式会社サンピア
- ・シオノギ社会貢献支援会
- ・ジャンボパーキング株式会社
- ・宗教法人 松緑神道大和山
- ・昭和産業株式会社
- ・新晃工業株式会社
- ・真如苑
- ・株式会社スリーケー
- ・宗教法人「生長の家」
- ・一般財団法人世界聖典普及協会
- ・株式会社セゾン情報システムズ
- ・株式会社セブン&アイ・フードシステムズ
- ・全国農協食品株式会社
- ・泉南乳業株式会社
- ・株式会社高島屋
- ・株式会社大創産業
- ・大和証券株式会社
- ・DSM株式会社
- ・特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International
- ・東亜道路工業株式会社
- ・東海農産株式会社
- ・トップ卵株式会社
- ・株式会社中村屋
- ・中山福株式会社
- ・株式会社ニコン
- ・日清食品株式会社
- ・日清食品ホールディングス株式会社
- ・日清食品冷凍株式会社
- ・株式会社
- ・日清製粉グループ本社
- ・日本ハム株式会社
- ・日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社
- ・日本証券業協会

- ・日本生活協同組合連合会
- ・日本農産工業株式会社
- ・一般社団法人日本フードサービス協会
- ・日本労働組合総連合会
- ・野村ホールディングス株式会社
- ・ハウス食品グループ
- ・株式会社バナホーム兵庫
- ・株式会社ファイネット
- ・株式会社ファミリーマート
- ・プリマハム株式会社
- ・株式会社プレーリードッグ
- ・一般財団法人ベターホーム協会
- ・株式会社ボボラマーマ
- ・Mastercard Japan
- ・マルイ食品株式会社
- ・丸真株式会社
- ・三井住友カード株式会社
- ・三菱商事株式会社
- ・株式会社三菱UFJ銀行
- ・株式会社三菱UFJ銀行社会貢献基金
- ・三菱UFJニコス株式会社
- ・株式会社
- ・村内ファニチャーアクセス
- ・株式会社明光ネットワークジャパン
- ・株式会社 明治
- ・ヤフー株式会社
- ・有楽製菓株式会社
- ・株式会社ユニーク
- ・立正佼成会 一食平和基金
- ・立正佼成会 佐倉教会
- ・リンベル株式会社
- ・株式会社ロッテ
- ・株式会社ワコウ

2021年度決算報告

活動計算書

2021年1月 1日から2021年12月31日まで

科目	金額 (単位:円)
I 経常収益	
1 受取会費	80,355,000
2 事業収益	10,769,414
3 受取寄付金	2,058,803,958
4 受取助成金等	226,080,000
5 その他収益	4,599,117
経常収益計	2,380,607,489
II 経常費用	
1 事業費	(1)人件費 67,160,791 (2)その他経費 2,155,868,932 事業費計 2,223,029,723
2 管理費	(1)人件費 18,683,066 (2)その他経費 14,832,181 管理費計 33,515,247
経常費用計	2,256,544,970
経常外費用計	
当期経常増減額	124,062,519
税引前当期正味財産増減額	124,062,519
法人税、住民税および事業税	74,500
当期正味財産増減額	123,988,019
前期繰越正味財産額	247,103,848
次期繰越正味財産額	371,091,867

※「1 事業費 (2) その他経費」には寄付金支出が含まれます。

賃借対照表

2021年12月31日現在

科目	金額 (単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	現金預金 902,562,454 未収金 181,780,434 商品 561,426 貯蔵品 3,300,300 前払金 359,464 流動資産合計 1,088,564,078
2 固定資産	(1)有形固定資産 什器備品 1,357,506 建物付属設備 8,058,418 有形固定資産合計 9,415,924 (2)無形固定資産 商標権 25,995 ソフトウェア 10,239,260 無形固定資産合計 10,265,255 (3)投資その他の資産 投資有価証券 57,899,500 投資その他の資産合計 57,899,500 固定資産合計 77,580,679 資産合計 1,166,144,757
II 負債の部	
1 流動負債	未払金 791,765,343 未払法人税等 74,500 前受金 660,000 預り金 2,075,947 未払消費税等 477,100 流動負債合計 795,052,890
負債合計	795,052,890
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	247,103,848
当期正味財産増減額	124,062,519
正味財産合計	371,091,867
負債及び正味財産合計	1,166,144,757

※紙面の関係から要約版といたしました。
詳細は当協会ホームページにてご覧いただけます。
<https://ja.wfp.org/jawfp-annual-report>

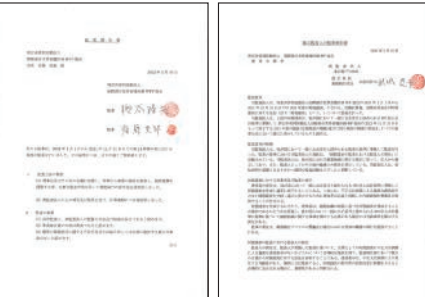


活動における法令や指導等の遵守

国連WFP協会では飢餓問題の最新状況のご案内とご寄付の願いを目的に、関連各所の指導・許可を受け「駅前や商業施設などでの街頭キャンペーン」を、また個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)を遵守し「ダイレクトメール(DM)の送付」を実施いたしております。より多くの方に支援の輪をひろげるために、ご理解とご協力をお願いいたします。

情報公開と監査報告

国連WFP協会は、法人の監事が内部監査を行うとともに、監査法人に依頼して外部監査を受けています。事業報告書や財務諸表および財産目録は、所轄庁である横浜市に提出され、またウェブサイトにも掲載されています。



役員一覧

敬称略 五十音順 ※2022年4月1日現在

会長	安藤 宏基 日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO
理事	忍足 謙朗 WFP国連世界食糧計画 アジア地域局長
同	折茂 美保 株式会社ボストン コンサルティング グループ マネージング・ディレクター&パートナー
同	小谷 真生子 経済キャスター
同	小林 文彦 伊藤忠商事株式会社 代表取締役 副社長執行役員 CAO
同	鈴木 邦夫 特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会 事務局長
同	判治 孝之 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 代表取締役社長
同	本田 亮 クリエイティブディレクター/環境マンガ家
同	松江 勝美 公益財団法人横浜市国際交流協会 元常務理事
同	焼家 直絵 WFP国連世界食糧計画 日本事務所 代表

監事	榎谷 隆夫 公認会計士・税理士
同	齋藤 史郎 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 顧問



© WFP/Claire Nevill



© WFP/Sayed Asif Mahmud



国連WFPは、
2020年にノーベル平和賞を受賞しました。

SNSでも情報を配信しています。

国連WFPストーリーズ

<https://ja.wfp.org/stories>



@WFP_JP



@WFP_JP



wfp_japanoffice / jawfp_official



国連WFP

国連WFP協会

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6F

☎0120-496-819 受付時間 9:00～18:00(通話料無料・年始を除く年中無休)

公式ホームページ

<https://ja.wfp.org/>



表紙：イエメン アデンで学校給食支援を受けるアスラールちゃん。豆やチーズ、野菜の入ったサンドイッチ、果物を笑顔で食べます。 © WFP/Hebatallah Munassar